

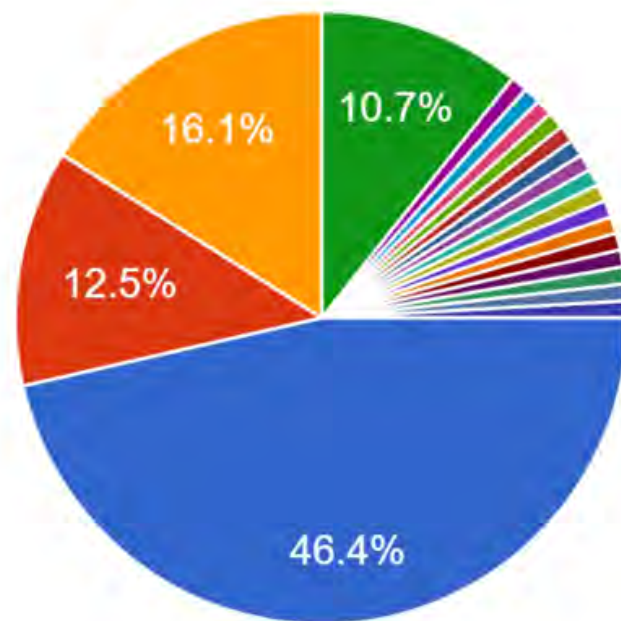


キックオフアンケート結果

COG2026視聴登録者向けアンケート
2026年6月上旬実施

属性1：あなたのお立場

112 件の回答

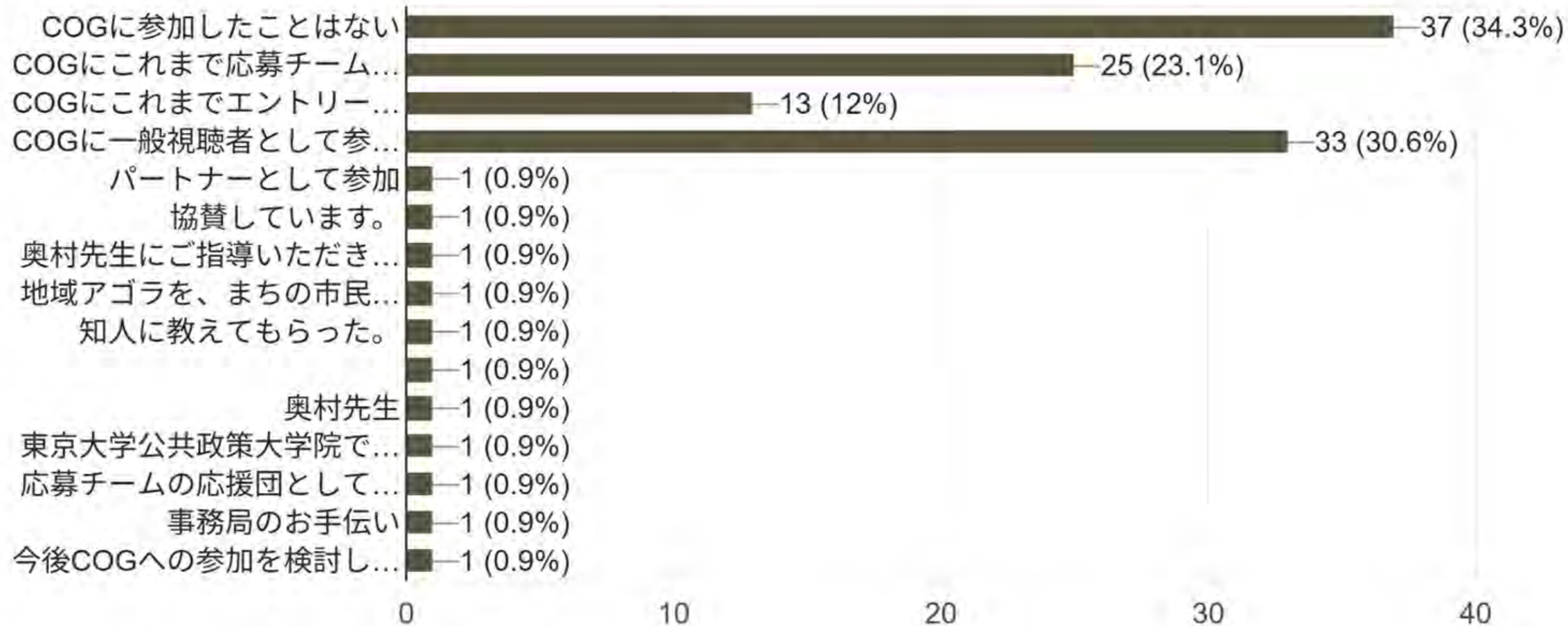


- 市民
- 学生
- 自治体
- アドバイザー（先生を含む）
- NPO法人理事長
- パートナー
- 公務員
- 調査研究に従事

▲ 1/3 ▼

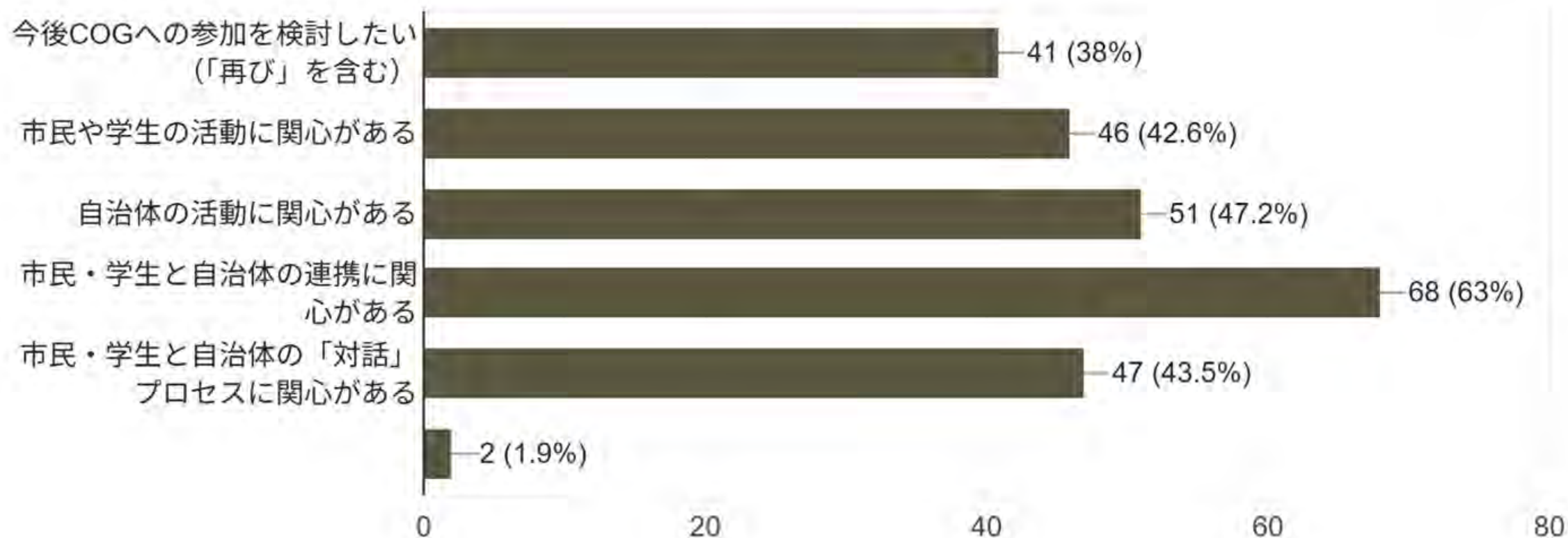
COGとの関わりをお選びください（複数チェック可）

108 件の回答



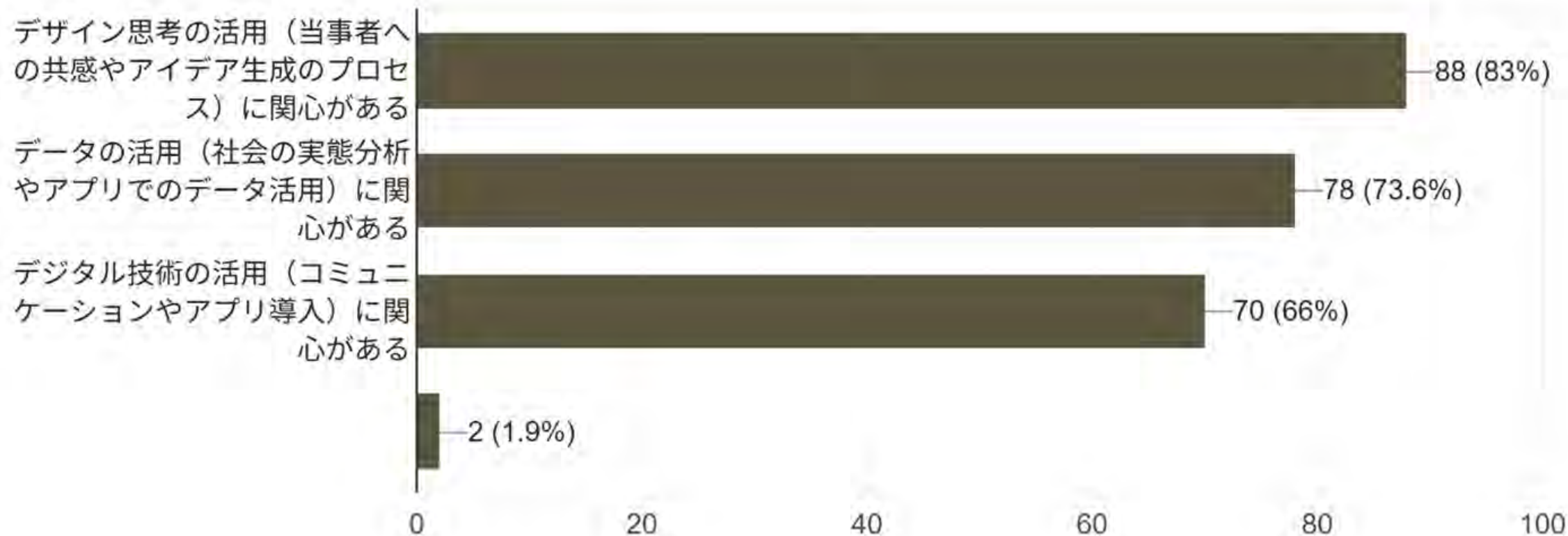
COGへの関心をお選びください（複数チェック可）

108 件の回答

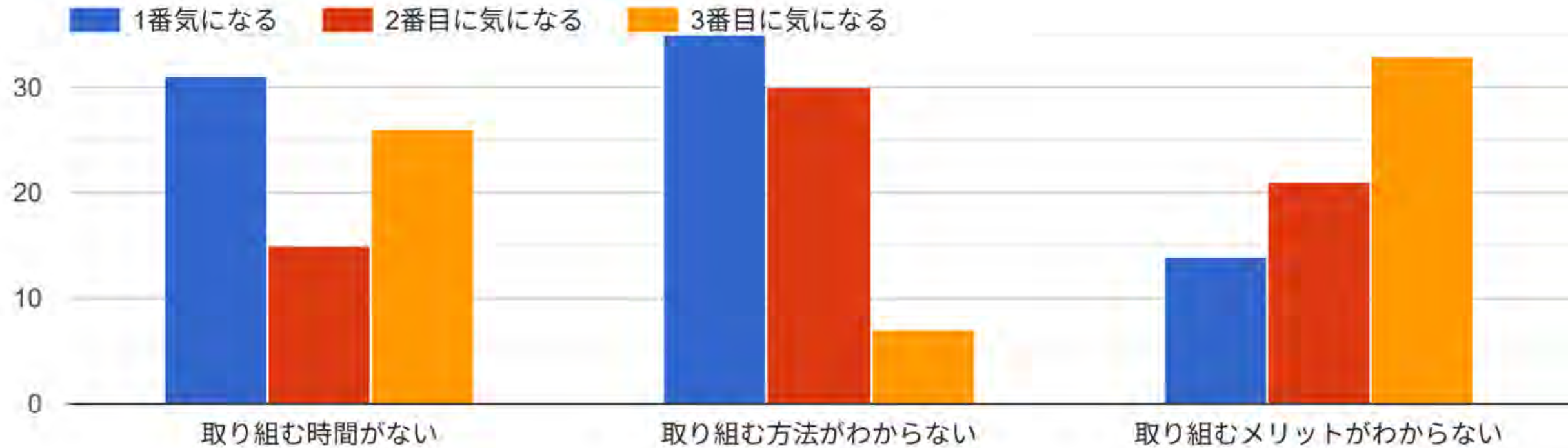


COGが勧める3D（デザイン思考・データ活用・デジタル技術）への関心（複数チェック可）

106 件の回答



（市民）市民がオープンガバナンスに取り組む際の課題



(市民) その解決策のヒント・その他に 感じる課題があればご自由に

1. 身近な事例と小さな成果の共有

AI活用や地域活動について、身近な事例や具体的なメリットを示し、ミクロでも目に見える成果を確認できることが参加のきっかけになる。

2. 人とのつながり・仲間づくりの重要性

良い仲間と楽しく取り組めることが鍵であり、仲間に巡り会えないと参加は難しい。地域には多様な人が暮らしており、現代版の「井戸端会議」のような、知り合い話し合う場が必要である。

3. 市民を巻き込むための接点づくり

土日の催事や市民団体の活動の場に行政が出向くなど、行政側から地域に入り込む工夫が必要。募集や呼びかけが届いておらず、関わりたい人に情報が届いていない可能性がある。

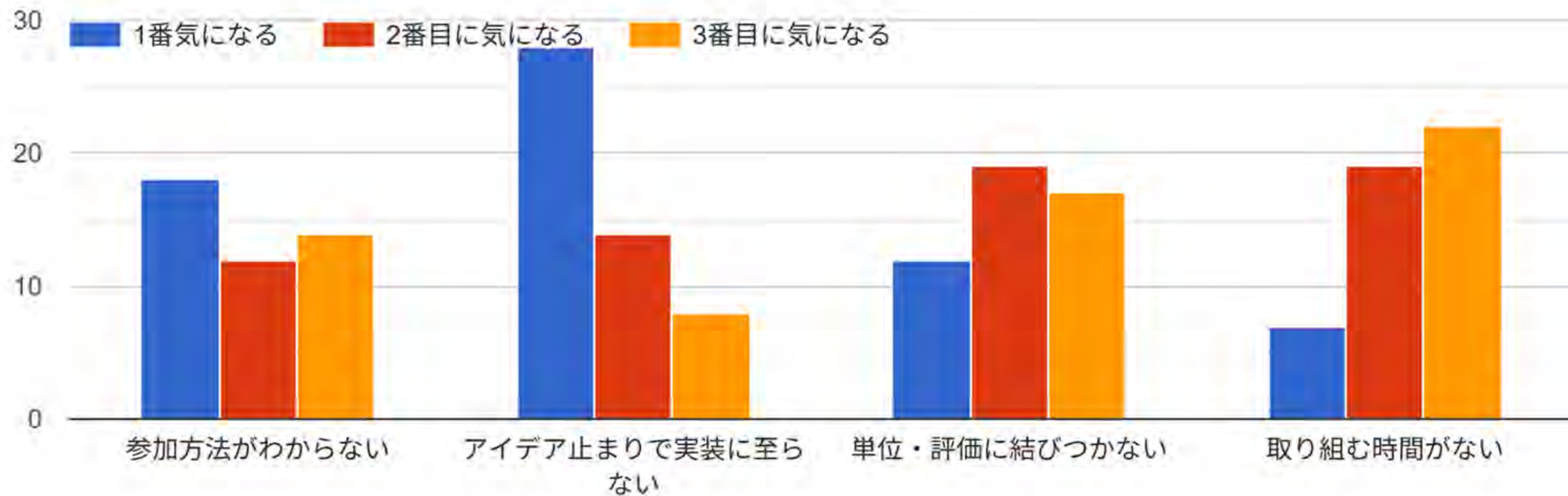
4. 分野を超えた連携と支援体制

分野を超えた連携、アドバイザーの存在、応募経験者の参加、地域で意識づけを担う人の可視化などにより、技術面以外の不足を補い、よいアイデアにつなげられる。

5. 当事者意識を高めるテーマ設定とPR

関心のある人だけが情報を得る状況を超えるため、当事者意識のわきやすいテーマを選び、取り組むメリットをPRすることが重要。会社や組織が奨励し、成果につなげる視点も必要である。

(学生) 学生がオープンガバナンスに取り組む際の課題



(学生) その解決策のヒント・その他に 感じる課題があればご自由に

1.継続性の難しさ

単位取得や進学目的だけになると、活動が一過性になりやすい。単年度や在籍期間に限られる仕組み、卒業後の関わり方も課題である。

2.自分ごと化のきっかけづくり

学生が参加するには、体験の場や自分で企画する機会が必要。忙しい中でも関わりたいと思えるメリットや糸口を示すことが大切である。

3.協働人材と支援者の確保

学生の中で協働できる人を見つけることが難しいため、地域コーディネーターや賛同する先生の存在が重要になる。

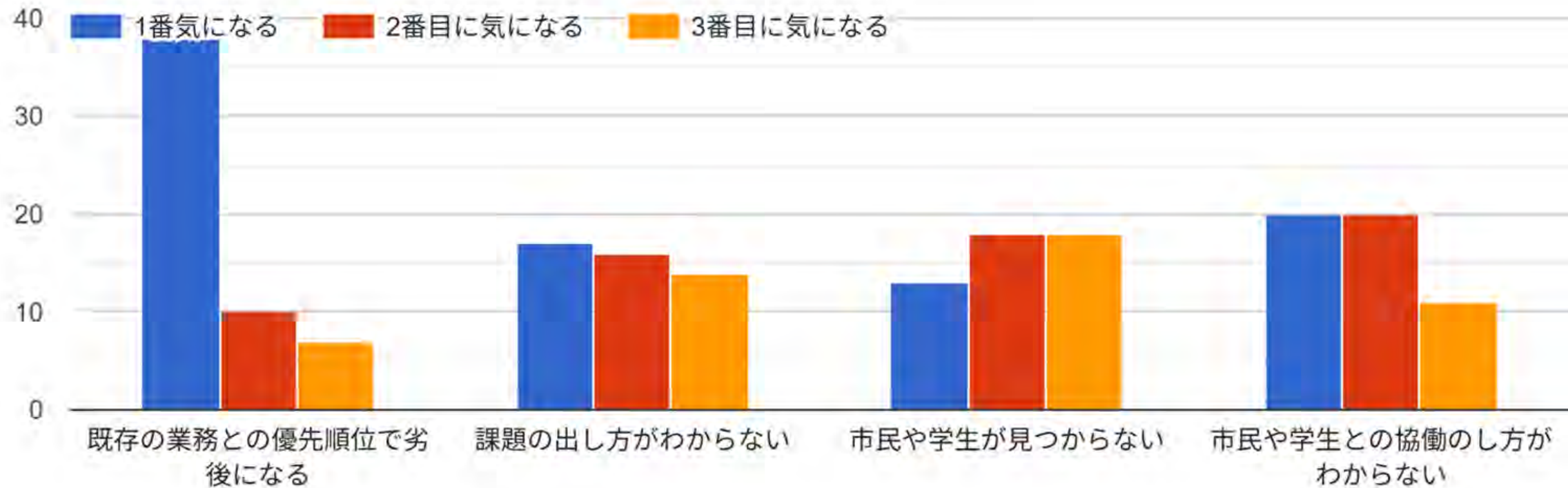
4.実装・広報・人脈形成の重要性

実装に至っても継続が難しいため、広報をしっかり行い、人脈をつくることが必要。アイデアをオープンに出すことで、新たなつながりが生まれる可能性もある。

5.教育制度との接続

入試制度や公立学校の在り方、不登校を含む教育課題とも関係する。学生の参加が大学評価などに反映される仕組みがあると、参加の後押しになる。

(行政) 行政がオープンガバナンスに参加する際の課題



(行政) その解決策のヒント・その他に 感じる課題があればご自由に

1.行政と市民の信頼関係づくり

行政の要望が強くなりすぎないようにしつつ、行政への信頼感や協業の安心感を醸成することが重要である。

2.日常業務の中で取り組める仕組み

職員は日々の業務に追われているため、「余計なこと」ではなく、住民との協働を正式な業務として位置づけ、お互いが楽になる取組として設計する必要がある。

3.課題提示とマッチングの仕組み

協力したい自治体・学生・企業・団体・個人をデータベース化し、課題の熟度や向き不向きを分かりやすくした上で、適切にマッチングする仕組みが求められる。

4.行政職員への働きかけと支援体制

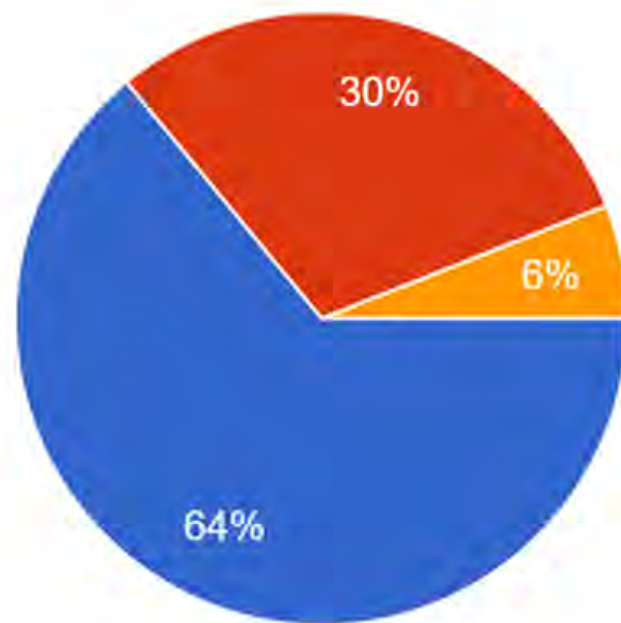
応募開始前から行政職員に直接働きかけること、セミナーやアドバイザーを用意することが有効である。広く学生に認知される工夫も必要である。

5.行政側の柔軟性とリーダーシップ

市民の声を拾い、一緒に考える場を大切にする柔軟性が行政に求められる。特に首長の姿勢や、協働を行政内で評価・奨励する仕組みが重要である。

生成AIの利用状況

100 件の回答



- よく使う
- ときどき使う
- 試したが今は使っていない
- 使ったことはないが今後使ってみたい
- 使う見込みはない

AIを使っている・使いたい用途（市民活動やアイデア創出での使い方など）をご自由に

1.記録・要約・資料作成の効率化

議事録作成、会議録、文章要約、資料の要点整理、プレゼン資料や報告書、企画書の下書き作成に活用したい。

2.情報収集・調査・分析

政策リサーチ、事例調査、課題把握、データ整理・分析、アンケートやインタビュー項目の精度向上などに使いたい。

3.アイデア出し・壁打ち・企画検討

新サービスやイベント、政策、地域活動の企画について、アイデア創出、問題点の洗い出し、キャッチコピー案、判断に迷う時の相談相手として活用したい。

4.文章・広報・表現の支援

SNS投稿、プレスリリース、チラシ・ポスター、キャッチコピー、想いの言語化、文章校正・整形・翻訳など、伝えるための表現づくりに使いたい。

5.専門的・個別的な作業支援

プログラミングや分析コードの作成、プラグイン開発、画像生成、専用AIへのカスタム化など、業務や関心に応じた個別の作業補助として使いたい。

生成AIについての心配や課題について 思うことをご自由に

1. 個人情報・情報漏洩・学習利用への不安

個人情報の取り扱い、入力情報が学習されない環境整備、情報漏洩への懸念が多く挙げられている。自治体や学校、企業で使う場合には、安全な利用環境が必要。

2. ハルシネーション・誤情報・ファクトチェックの課題

生成AIが架空の説明をしたり、SNS等で誤認を広げたりする危険がある。AIの回答をそのまま信じず、ファクトチェックを行い、最終判断は人間が行う必要がある。

3. 過度な依存・思考力や創造性の低下への懸念

「AIがこう言っている」と盲信する職員や、AIを万能と考える人が増えることへの不安がある。自分で考える力、内省する力、個人の創造性を失わない努力が必要。

4. 悪用・著作権・教育現場での問題

盗作、著作権侵害、フェイク画像、いじめ、犯罪への悪用、生成AIによるダークパターンなどが課題として挙げられている。特に学生の論文作成や評価のあり方にも影響が出る。

5. 使いこなし・人間側の教育とルールづくりが必要

指示の出し方が難しい、思い通りの回答にたどり着かない、利用法を知りたいという声がある。全世代に向けて、AIを便利な道具として適切に使う教育と、必要な制限・ルールづくりが求められる。